



社会医療法人 松藤会 広報誌

TAKE FREE

ご自由に
お持ち帰りください

まほろば

「地域にいきる」を支えます

Vol. 73

2022 SUMMER

病める命が安心して
つどうことの出来る
まほろばとなる様
この病院を
育んで行きたい

50th Anniversary

1972-2022 創立50周年 特別号



1972年（昭和47年）当時の正面玄関にて撮影

五十周年に寄せて

繰り返す自然災害や世界情勢の激変、パンデミック。今年の夏の空は例年とは異なった風情を放っているように見えます。

皆さん、お元気でお過ごしでしょうか。かつて広々とした田畑の広がる英賀保の地に小さな病院が産声を上げてから、今年で五十年が経ちました。

思えば当時、周りは田圃と畑に囲まれていて、蓮華が咲き乱れ、カエルの合唱が夜空に響き渡っておりました。日本列島改造論が出て世の中は活気に満ち、沖縄の本土返還、山陽新幹線がスタートした年でもありました。

医療の進歩も著しく、当時400人だった100歳以上の方は半世紀を経た今、86000人を超えています。少子高齢化の波も増進し、医療や社会の在り方までも対応を求められる情勢となりました。

時代の波に押されて病院も病床や設備が増設され、病床は3倍以上になり、介護老人保健施設も建ちました。その他、通所リハビリテーション、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、居宅介護支援事業所、サービス付き高齢者向け住宅や院内部署も増え続け、職員数も著増しております。

あれから半世紀、山あり谷あり、皆様に支えられてここまでやって来ることが出来ました。嵐の日も日照りの日も陰から支えてくださった数知れぬ恩人の方々、永い道のりを静かに見守って下さった地域の方々、夢の中でも感謝に涙する「おかげさま」の日々でありました。

開院五十周年を迎え、職員一同心を新たに、故郷の地域医療を守るため精進を尽くしたいと考えております。

どうか、今後とも入江病院をよろしくお願い申し上げます。

令和四年六月吉日

入江病院（松藤会） 50年のあゆみ

- 昭和 47年 英賀春日町に入江病院を開院する（51床）
- 48年 人工透析室を開設する（2床）
- 55年 人工透析室を15床へ増床する
- 56年 医療法人 松藤会に改組する
- 入江善一が初代理事長に就任する
- 62年 入江病院を75床へ増床する
- 63年 入江病院を127床へ増床する
- 平成 9年 西夢前台に老人保健施設ゆめさきを開設する
- 人工透析室を35床へ増床する
- 訪問看護ステーションまんぼうを開設する
- 12年 介護老人保健施設ゆめさきへ名称変更する
- 居宅介護支援事業所ゆめさきを開設する
- 13年 大規模改修を行い、199床へ増床する
- 14年 短時間型通所リハビリテーションを開設する
- 15年 回復期リハビリテーション病棟（42床）を開設する
- 20年 亜急性期病棟（8床）を開設する
- 回復期リハビリテーション病棟を50床へ増床する
- 22年 入江隆三郎が理事長に就任する
- 24年 サービス付き高齢者向け住宅リリーフあがほを開設する
- 28年 訪問看護ステーションゆめさきを開設する
- 一般病棟52床をDPC対象病棟とする
- 地域包括ケア病棟（42床）を開設する
- 29年 介護老人保健施設ゆめさきが在宅復帰強化型となる
- 令和 2年 社会医療法人の認定を受ける（姫路市では4例目）
- 令和 3年 入江善一が入江病院院長退任し、松藤会会長に就任する
- 入江聡五郎が入江病院院長に就任する
- 4年 入江病院創立50周年を迎える



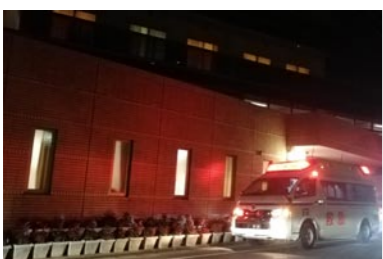
当時の受付。まだ小さな病院に多くの患者さんが詰めかけました



近隣地域では最も早く、人工透析室が導入する



高齢化社会を見据えて、リハビリ棟を建設、専門スタッフも増員する



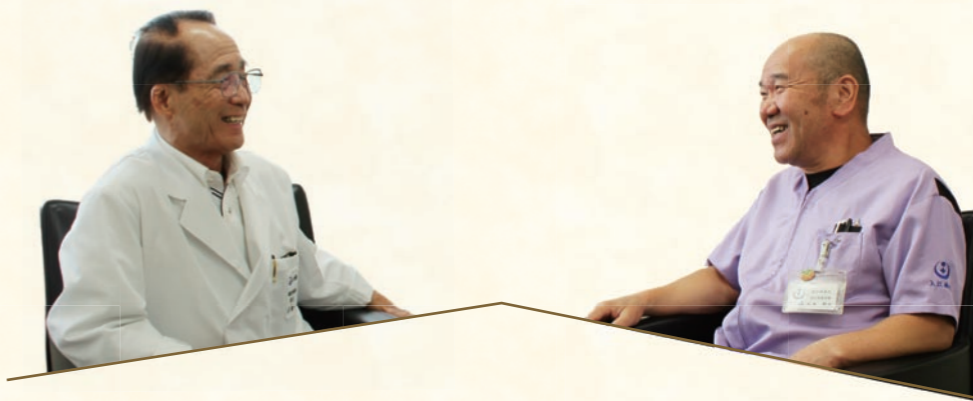
救急医療の分野での実績が評価され、2020年に社会医療法人の認定を受ける



◀ 1975年の航空写真
象徴である英賀保駅を中心とした扇形の道路整備はすでに完成していた
病院の周りには多くの田圃や畑に囲まれており、マンションなどは未だ見当たらない

▶ 2022年6月創立記念日にて
創業当時は十数名だった職員は現在は400名を超える
医師、看護師を中心に様々な専門職がチーム医療で患者さんをサポートします





創業者と職員が語る

あのころとこれから

松本 哲生
昭和57年入職。臨床検査技師。
今年の創立記念式典で40年の
永年勤続表彰を受賞。

「松本さんは今年、勤続40年を
迎えられました」

は業者には出来ないことに挑戦
し、難局を乗り越えましたね。

松本 長いようで、凄く短かった
ですね。振り返ると、とても充実
した40年だったと思います。
当時は良い意味でやりたい放
題だったですね。現在でこそ検査
室には多くの機器が整備され、一
度に複数項目の検査を短時間で
行うことができますが、当時は検
査機器が一般病院にも普及し始
めた頃でした。検査技師という立
場から今、病院に必要なことや何
ができるかを考え、自分たちがし
たいこと、取り組んでみたいこと
を院長(現会長)に打診をして、取
り入れてもらっていました。

会長 あの当時は、自分たちで研

究をした上で先進的な考えを取
り入れていこうとする検査技師
はいなかったですから、松本さん
には活躍してもらいました。

しかし、1度だけ「松本さん、ど
うするだろう。辞めてしまわない
だろうか」と心配する出来事があ
りました。それは、検査に関す
る外注業者が増え始めた頃です。
業者は検査が行われるたびに検
体を回収に来ると言います。そう
なると検査室の必要性がなくな
るのではないかという議論が起
こりました。そこでも、松本さん



松本 詳しく何をしたかは覚え
ていませんが、外注すると検査
結果にどうしても時間が掛かっ
てしまいます。そこで、基本的
な検査や救急患者さんの検査に
ついては院内で迅速に結果を出
せるように体制を整えました。
辞めるという選択はなかった
ですね(笑)。「どないかせ
な、しょうないわ」という思い
でした。ESWL(体外衝撃波
結石破碎装置)を導入する話が
持ち上がった時もそうでした。
院長から「できるか？」の相談
に、「勉強して、やります」と
答え、検査技師として活路を見
出していきました。

「楽しい思い出、時にはつらい
思い出もあったと思います」

会長 開業してからしばらくの間
は年中睡眠不足の状態でした。
医者は私1人の時もあり、看護師
は数人です。午前の外来診察は9
時から12時でしたが、午前中だけ
で200人の患者さんが来院さ
れます。1人1分の診察だとして
も時間内には終わりません。様々
な工夫を行いました。午前診察
が終わるのはいつも14時、15時で
した。その後、日帰りの手術を行
い、17時から再び夜の診察を行
います。その他にも大きな手術や入
院患者さんの診察、救急患者さん
の受け入れも行っていました。

仕事が終わるのはいつも夜中
で、生きている実感すらありませ
んでしたね。
それは当時勤めていた職員も
同じだったと思います。事務員も
1人で受付から会計業務までを
こなし、月初には何千人もの患者
さんのレセプト(請求業務)処理
を行っていました。当時は手書き
の時代ですから相当の苦勞があ
ったと思います。

今年50周年を迎えることができ
たのは、家庭を顧みず患者さんの
ために尽くしてくれた職員のお
かげであると今でも感謝してい
ます。

入江 善一

松藤会会長。総合診療科医師。
昭和47年に入江病院を開院。
現在も週1回の外来を担当。

松本 私が入職した頃はすでに
100人くらいの職員がいまし
たから、そこまで多忙を極めた
ことはありませんが、当時の婦
長さんからはいろんな話を聞か
せてもらいましたね。

私は長年勤めてきましたがつ
らい思い出というより、懐かし
い思い出の方が先に出来ますね。
つらい思い出は何度も骨折しな
がら仕事に来たことくらいで
しょうか(笑)。

懐かしい思い出としては、親
睦会を立ち上げたことですね。
当時の病院は仕事一筋の雰囲気
で、行事や冠婚葬祭などを取り
まとめる担当者がいませんでした。
病院を活性化させるには、
職員を活性化させないといけな
いと感じ、若手4人ほどの職員
が集まって親睦会を立ち上げま
した。
忘年会を開催したり、バスを
貸し切ってスキーへ行ったり、
部署の垣根を越えて、ひとつの
家族のように、苦楽を共にした
思い出があります。

会長 懐かしいね。当時の私に
はそんな余裕がありませんでした
から、非常にありがたかったです
ですよ。本来、部署にはそれぞ
れの役割がありますが、忙しい
時はそれぞれではありませ

「この先の50年に向かってメッ
セージをお願いします」

松本 私が入職してからの40年
で病院は大きくなって、職員の数も
400人を超える規模になりました
が、1人1人の患者さんに対
するチーム医療の精神は変わら

いと思います。それぞれの専門職
が役割を果たし、横の繋がりを大
切にすることで、よりよい医療が
提供できると思います。入江病院
の良さである垣根のない繋がりを
これからも大事にしてほしい
ですね。

会長 病院というのはどのよう
な災害が起こったとしても必要
とされます。近年は新型コロナウイルスの
影響で刻々と社会情勢が移り変
わっています。さらに、医療業界
ではAIの導入など先進的な取
り組みも進歩しています。

このような状況の中
で病院にはタクトを振
る人材が求められます。
病院を引っ張り、医療機
関の中で先進性のある
集団に成長していつて
欲しいと願っています。



写真 平成10年頃
親睦会による餅つきの
様子。当時は職員、家族、
地域の方々が寄り合い
恒例行事として親しま
れていた。現在は新型コ
ロナの影響で中止され
ているが、この頃の様
に盛大に餅つきが開催
されることを願う。

入江病院 診療科一覽



総合診療科

どの診療科を受診すべきか分からない患者さんや、病態がはっきりしない高齢患者さんに対する最初の窓口的な役割を担っています。全人的に診療することで問題点を明らかにし、各診療科と連携して、診療を進めていきます。

このような方はご相談ください

- ・原因がわからない発熱や倦怠感、その他急に出てきた症状
- ・急に身体が動きにくくなった。食事が通らない
- ・救急車を呼ぶほどでもないが、いつもより具合が悪そう



糖尿病内科

糖尿病を放置しておくと、三大合併症(網膜症・腎症・神経障害)に加え、足病変・動脈硬化性疾患・歯周病などのリスクを高めます。合併症を防ぐために、当院では医師・看護師・管理栄養士、理学療法士などチーム医療で患者さんをサポートします。

このような方はご相談ください

- ・健康診断で糖尿病(血糖・HbA1cなど)を指摘された
- ・糖尿病専門医による治療を受けたい方
- ・療養指導士による療養・食事アドバイスを受けたい方



腎臓内科

腎臓の機能は一度失われると回復しない場合が多いため、腎臓病は早期発見・治療が肝腎です。腎臓病の原因は多岐に渡り、病態により治療方法も異なりますが、患者さんの生活に寄り添った治療を考えてまいります。

このような方はご相談ください

- ・尿検査で異常(たんぱく尿)を指摘された
- ・血液検査で異常(クレアチニン、eGFRなど)を指摘された
- ・尿量が増えた、または減った。むくみがある



消化器外科

一般的な外科処置から、虫垂炎や消化器癌などの消化器疾患に対する手術治療まで、消化器内科と連携し幅広い診療を行っています。手術に際しては、患者さんの身体的・精神的負担を第一に考え、腹腔鏡による負担の少ない低侵襲手術を実施しております。

このような方はご相談ください

- ・外傷や肛門疾患などの外科疾患
- ・急な激しい痛みを伴う腹痛
- ・腹腔鏡による負担の少ない手術を希望される方



内科

内科は、一般内科と消化器内科、循環器内科、腎臓内科、人工透析内科、糖尿病内科より成り立っており、高血圧や糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病から、慢性的な疾患まで幅広い診療に対応しています。

このような方はご相談ください

- ・咳やのどの痛み、腹痛など日常的にみられる症状
- ・高血圧や糖尿病などの生活習慣病
- ・その他、健康診断で異常を指摘されて放置していませんか？



消化器内科

消化器内科では、消化管(胃・腸・食道)から肝臓、胆道など広い領域で専門的に治療、検査を行っています。胃や大腸などの内視鏡検査は鎮静剤を使用した「苦痛の少ない検査」を目指しており、切除可能なポリープは検査時に切除することもできます。

このような方はご相談ください

- ・胃や下腹部に痛みや不快感がある
- ・黒い便や血の混じった便が出る。便秘や下痢症状がある
- ・家族に消化器がんになった方がいる

「地域にいきる」を支えます



泌尿器科

泌尿器科では、腎臓から尿道までの尿路系と前立腺などの男性生殖器系の疾患を扱います。泌尿器系の症状の背景には様々な病気が隠れている可能性があり、持病や年齢によっては重症化する可能性もありますので、早めに受診するようにしてください。

このような方はご相談ください

- ・尿漏れや尿失禁がある
- ・尿に血が混じっている。血尿を指摘された
- ・頻尿や残尿感、排尿痛などの排尿症状がある



人工透析内科 (人工透析室)

腎不全の末期症状において、低下した腎機能の代わりに役割を果たすのが、透析療法です。透析治療においては、血液透析と血液透析濾過(オンラインHDF)を導入しています。1人1人の患者さん適した治療が提供できるよう取り組んでいます。

このような方はご相談ください

- ・人工透析が必要と診断された方
- ・ライフスタイルに応じた透析を検討したい
(ベッドの空き状況などはお問い合わせ下さい)



整形外科

整形外科では骨や関節、筋肉、靭帯、神経といった運動器の外傷や疾患に対して様々な療法を用いて治療を行っています。まずは問診や検査により原因を突き止めた上で、痛みの原因や状態に応じて保存療法か手術療法を選択していきます。

このような方はご相談ください

- ・転倒や打撲による痛み
- ・腰痛、関節痛など慢性的な痛みがある
- ・圧迫骨折や大腿骨骨折の既往があり骨粗鬆症が気になる方



脳神経外科

脳外科では、頭痛やめまいなどの診療から、脳卒中や頭部外傷まで脳疾患における治療を行っています。専門的知識および多くの診断機器を備え、的確に診断を行い、薬、その他の内科的治療から外科専門手術に至るまで幅広く対応しております。

このような方はご相談ください

- ・脳卒中が疑われる急性症状(頭痛、呂律が回らないなど)がある
- ・慢性的な頭痛やめまいが続く
- ・頭部を強く打ったなど

■ 外来診察担当表

	診療科目	月	火	水	木	金	土
午前診 9:00~12:00 (受付時間) 8:30~12:00	総合診療科		入江聡/入江善			入江聡	
	内科	上田/野坂		上田/柴田	野坂/牧野/兒玉		柴田/山本
	糖尿病内科	清水	清水	清水	清水	清水	清水
	腎臓内科			非常勤医師			
	消化器外科	針生	辰巳	加藤	針生	辰巳	加藤
	整形外科	平田	小田香	嶋	平田/長尾	小田香	平田
	脳神経外科	谷本	谷本	富田		富田	谷本
	泌尿器科			白波瀬			白波瀬
午後診 (予約制)	糖尿病内科	清水	清水		清水		
	腎臓内科				非常勤医師		
夜診 16:00~18:00 (受付時間) 15:30~18:00	総合診療科		入江聡				
	内科	野坂		柴田	兒玉	上田	
	消化器外科	針生		加藤		辰巳	
	整形外科	小田聖		嶋	平田/長尾		
	脳神経外科	谷本		富田			

ご注意事項：糖尿病内科、腎臓内科は予約制です。

入江善（月曜日/総合診療科）、嶋（水曜日/整形外科）、長尾医師（整形外科）は予約制です。

入江病院ホームページ

診察担当表や各診療科のご案内、健康にお役立ていただける情報を掲載しています。



老健ゆめさきホームページ

施設の受け入れ体制や空室状況、その他各種イベントの情報などを掲載しています。



「地域にいきる」を支えます

急性期医療から回復期リハビリ、施設介護、そして在宅医療まで。

「安心と満足」の医療・介護で地域を支えます。

社会医療法人 松藤会

入江病院

〒672-8092 姫路市飾磨区英賀春日町2丁目25番地

TEL.079-239-3121（代）

併設事業所：短時間型通所リハビリテーション

訪問看護ステーション ゆめさき

介護老人保健施設 ゆめさき

〒671-1103 姫路市広畑区西夢前台6丁目56-1

TEL.079-237-8735（代）

併設事業所：居宅介護支援事業所

サービス付き高齢者向け住宅 リリーフあがほ

〒672-8092 姫路市飾磨区春日町2丁目11番地

TEL.079-238-5855

